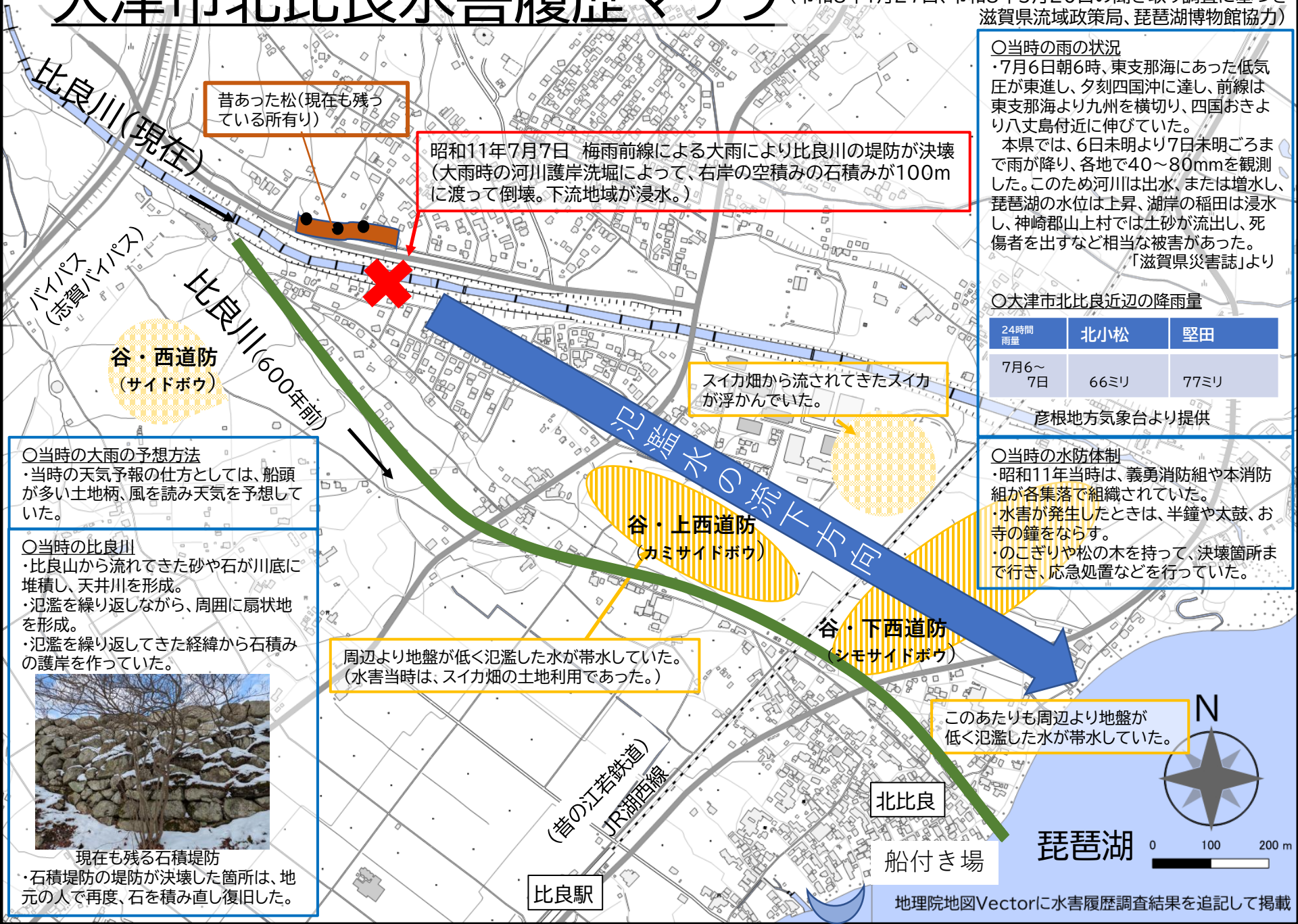
大津市北比良水害履歴マップ

昭和11年7月7日　梅雨前線・低気圧による水害の状況
（令和8年1月27日、令和8年5月20日の聞き取り調査に基づき
滋賀県流域政策局、琵琶湖博物館協力）



○当時の雨の状況
・7月6日朝6時、東支那海にあった低気圧が東進し、夕刻四国沖に達し、前線は東支那海より九州を横切り、四国おきより八丈島付近に伸びていた。
　本県では、6日未明より7日未明ごろまで雨が降り、各地で40～80mmを観測した。このため河川は出水、または増水し、琵琶湖の水位は上昇、湖岸の稲田は浸水し、神崎郡山上村では土砂が流出し、死傷者を出すなど相当な被害があった。
「滋賀県災害誌」より

○大津市北比良近辺の降雨量

24時間雨量	北小松	堅田
7月6～7日	66ミリ	77ミリ

彦根地方気象台より提供

○当時の水防体制
・昭和11年当時は、義勇消防組や本消防組が各集落で組織されていた。
・水害が発生したときは、半鐘や太鼓、お寺の鐘をならす。
・のこぎりや松の木を持って、決壊箇所まで行き、応急処置などを行っていた。

○当時の大雨の予想方法
・当時の天気予報の仕方としては、船頭が多い土地柄、風を読み天気を予想していた。

○当時の比良川
・比良山から流れてきた砂や石が川底に堆積し、天井川を形成。
・氾濫を繰り返しながら、周囲に扇状地を形成。
・氾濫を繰り返してきた経緯から石積みの護岸を作っていた。

現在も残る石積堤防
・石積堤防の堤防が決壊した箇所は、地元の人で再度、石を積み直し復旧した。

地理院地図Vectorに水害履歴調査結果を追記して掲載